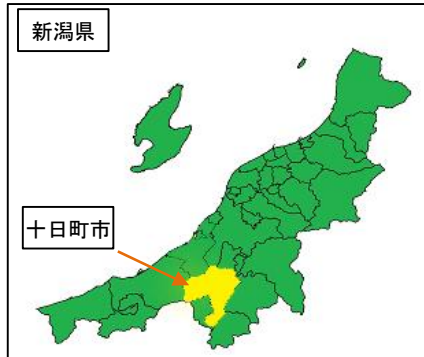


くろくら
黒倉集落協定（新潟県十日町市）

移住者が移住者を呼ぶ、農業の担い手から地域の担い手へ世代をつなぐ集落づくり

協定面積: 田 23.3ha(急傾斜20.9ha)
協定参加者: 農業者19名 協定開始: 平成12年度



地域の概要・経緯

- 本集落協定地区は、十日町市の中心部から西南西約14km、長野県境近くの松之山地区のほぼ中央に位置しており、周辺を山々に囲まれた自然豊かな環境で、冬には4メートル近くの積雪がある豪雪地帯に22世帯51人が暮らす。
- 「特定農山村地域」「過疎地域」「特別豪雪地帯」に指定されており、集落内の農地の約9割が急傾斜で、ほ場整備が行われていない維持管理に労力がかかる圃場が多い。
- 農業従事者の65歳以上の割合が7割を超えるなど、担い手不足が課題となっている中で、以前から、集落への訪問者の増加が見込まれる「大地の芸術祭」の作品誘致活動などの取組を通じ、移住者を呼び込む活動を行っており、平成27年から地域おこし協力隊の受入れを開始。



【再生されたそば畑】



【周辺林地の草刈り作業】

取組の概要

- 平成12年度から本制度を活用して農道・水路の補修や生産組合による農作業の共同化など営農体制の整備に取り組むとともに、地域外からの人材の確保に向けて、地域おこし協力隊の受入れを契機に、受け入れた人材と連携した都市住民との体験交流活動を推進。
- 現在、移住者が中心となって設立した地域活動団体「縄文ノ和黒倉（じょうもんのわくろくら）」が、新そば祭り等を開催するなど、体験交流活動を発展させており、移住者が新たな移住希望者を呼び込む好循環を創出（集落の6世帯12人が移住者）。
- また、移住者に対して農地の斡旋など地域への定着に向けたフォローも行っており、移住者は集落の共同作業に参加するだけでなく、高齢者世帯の除雪も行うなど、農業の担い手としてだけでなく、地域の担い手として活躍。



【縄文ノ和黒倉のメンバー】



【黒倉新そば祭り】